

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	A さん		
所属	教育 学部・大学院 中学校教員養成課程家庭 学科・専攻		
留学先機関名	リーズ大学 (国名： イギリス)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2019 年 2 月 11 日－ 2019 年 3 月 15 日	留学開始 時学年	1 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ 国際奨学事業 (熊本大学) ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 () 語)		
勉強方法	大学で行われる英語の授業とその勉強、英会話スクール、英会話のイベントへの参加		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	☒ プログラム費用 30万 円 ☐ 宿泊費用(寮/ホームステイ等) 円 ☐ ビザ申請 円 ☒ 渡航費(片道 ☒ 往復) 23万 円 ☒ 海外旅行保険料 2万 円 ☐ 食費 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	阪急交通社	手配	大学からの支援 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	福岡空港から成田空港、アムステルダム空港を経て、リーズ空港	到着時刻	現地時間 17 時頃 【※移動時間(約 19 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関(バス ☐ 電車) ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	空港に荷物が届かなかった人がいた。		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他()	ルーム メイト	☐ 日本人学生 ☒ 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	インターネットが使えないと道に迷ったりとかなり危険なのでポケット Wifi を持っていか SIM カードを買うかしたほうがいいと思います。 日本食をホストファミリーに作りたいのであれば、ある程度材料を日本から持って行ったほうがいいと思います。イギリスにも多少日本の調味料や食材など売っていますが、味が全然違います。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	月曜日から金曜日まで、午前中は General English の授業があり、授業テーマは、1 週目は Photo Project、2 週目から 4 週目は Victorian time、5 週目は今後教師なしで英語を学習していくには、だった。 Photo Project は楽しさを重視したような活動で、5 人ほどのグループが組まれた。まず、写真を撮るときのポイントについての授業があり、グループで大学内の写真を撮りに行き発表する授業、バスで観光地に行き写真を撮る授業、各グループ撮った写真から数枚選びキャプションを書く授業があった。最後にまとめとして、グループで写真について説明しながら発表する展覧会を行った。 ヴィクトリア時代についての授業は、好きなテーマ（例えば、教育やファッション）についてヴィクトリア時代と現在、またはヴィクトリア時代の初期と終期を比較しながら、ペアでプレゼンテーションを行うことをゴールとしたものだった。1 クラス 15 人ほどだった。指定された Web 記事を読んできてプリントの質問に答えるというような宿題がほぼ毎日課された。ヴィクトリア時代の人びとの生活や階級、産業革命など歴史的なことを学びながら、同時に、良いプレゼンテーションについての授業もあった。常にディスカッション形式で、先生の問いにも自由に発言していくというスタイルだったので、英語をたくさん話した。 最後の、「今後教師なしで英語を学習していくには」というテーマの授業では、伸ばしたい英語力が共通している 4 人ほどのグループになり、どういった方法で伸ばすか調べたり考えたりして、ラフなプレゼンテーションを行うというものだった。 こうした General English の授業と並行して、月曜日の午後は General English Plus という日常会話に焦点をあてた授業があった。15 人ほどのクラスにわかれ、会話を学んだ。ネイティブが使うナチュラルな表現や、タブーの話題、会話の終わらせ方、話題の変え方など学んだ。日本の学校ではほとんど学ばないような内容だったと思う。 火曜日と木曜日の午後は LinC という、テーマを選択できる授業があった。私は Literature のクラスをとっていて、「Of Mice And Men」という小説を読んだ。英語で、国語の授業をしている感じで難しかった。最終的に、その本の内容や時代背景などについての音声入りのプレゼンテーションファイルをグループで作り、e-exhibition という形で発表した。この授業もすべてディスカッション形式だった。
--	---

留学先大学でのサポート体制について (語学面／学校生活／住居・日常生活等)	・ Global Café や Conversation club という英会話を上達させた人が自由に参加できるイベントが毎日行われていた。 ・ 2週目に、先生が学生と1対1または1対2で不安や現状について話す教育相談のようなものがあった。 ・ 休日には大学が留学生向けに開催している旅行があった。
留学開始後に行った留学先大学の手続き (学生証、履修登録、大学IDの設定等)	Student ID カードの受け取り
休日や余暇の過ごし方 (観光、現地学生との交流等) ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	平日の午後、時間がある日は、友達とリーズの街に買い物に行ったり昼食を食べに行ったりした。また、ホストマザーと出かけたことも何度かあった。ホストマザーが友達とのランチパーティーや映画や、趣味の集まりに誘ってくれたり、近くの遺跡に連れていってくれたりした。ホストマザーの友達はいギリス人だけでなく様々な国の人がいたので、違う文化の家や、食べ物を体験することができ、とても良かった。 また、ハウスメイトのイタリア人学生が友達とのディナーや language exchange という英語を話すイベントに誘ってくれたりしたので一緒に行った。週末は日本人学生と遠くへ旅行に行った。日本で買ったガイドブックやインターネットを使いながら、行きたい所を決めたり計画を立てたりした。ヨーク、湖水地方、ロンドンに行った。景色や文化に感動した。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）
イギリスで、外国人と英語で話し授業でディスカッションをし、まず感じたことは、「英語ってこんな風に使うんだ!」ということだった。日本で、日本人同士で英会話の練習をしているときの、恥ずかしいような、本心の伝わらないような、英語を話しているけど日本語で意思疎通しているような変な感じがなく、外国人と話すとき自然に会話でき、英語で意思疎通している感じがとても楽しかった。思っていたより言葉が通じて、私の言ったことはみんなほとんど理解してくれた。 ただ、私は留学を通して大きな壁にぶつかった。それは、相手の言っていることが聞き取れないことがあるということだった。授業中の先生の指示やディスカッション中の他の学生の発言、グループでの会話が聞き取れないときは本当につらかった。留学前は、英語を話せないことを気にしていたが、それ以前に一発で正確に聞き取れないことのほ

うが大きな問題だと留学を通して分かった。英語がうまく聞き取れない、言葉が出てこず伝えるのに時間がかかるというのは、一つの身体障害のような感覚だった。1週目はイギリスで目にするもの何もかもが目新しく、とても楽しいわくわくした生活だったが、2週目で授業が本格的になり人とのかかわりが増えると、このような劣等感や不安を感じて、積極的になれなくなり、それによってさらに落ち込んだ。相手の言葉を聞き取れないのを恐れて自分から言葉を発するのが怖かった。あるとき日本の人に電話で相談したことで気持ちが前向きになり、それから他人と比較せず、昨日の自分と比較して成長していくようにしようと決めた。英語の上手な他の学生と比べてしまい自信がなくなっていたのだと思う。その日から、毎日 Conversation Club やその他の会話や交流を目的としたイベントを見つけて参加した。行ってみると楽しいし、終わったときの達成感はすごく大きかった。しかし、やはり行くには毎度勇気が必要で、昨日の自分より成長するためと思い、勇気を出して行っていた。授業でもわかるときは発言すること、わからないことがあれば質問することを心掛けた。このように努力したことで、リスニング力が伸びたと感じるし、自分で自分を成長させていく姿勢や積極的に取り組む姿勢が身に付いたと思う。

発音についても学んだことがあった。私のハウスメイトはイタリア人で、話すのがとても楽しかったのだが、イタリアなまりの英語は私にとって聞き取りにくかった。イントネーションも違うし、発音にも違いがあった。私とハウスメイトとの間では、スムーズに会話できないときがよくあった。簡単な単語でも聞き取れず、綴りを言って、「ああ〜！」となることが多かった。お互い、日本なまり、イタリアなまりで話していたからだと思う。それに対して、ネイティブのホストマザーは私たち2人の英語をほぼすべて正確に聞き取ってくれた。私はそれまで、発音は良いほうがいいが、そこまできれいなくても伝われば大丈夫だと、あまり重視していなかった。しかも、話す相手はネイティブスピーカーを対象に考えていた。しかし、留学を通して、なぜ発音が重要なのか、その一番の理由が分かった。発音が悪いと、ネイティブでない者同士で言葉が伝わらなくなるからだと思う。世界で英語を話す人の多くがネイティブではないし、仕事で英語を使うならネイティブでない人と接する機会が多いはずである。これから発音の練習も頑張っていきたいと思った。

また、留学を通して、自分が無知であることにも気づいた。Conversation Club の Book Chat のとき外国人と本の話をする機会があったが、会話の中で出てきた世界的な文学作品を私はほとんど何も読んだことがなかった。他の学生たちは多くの有名な本を知っていた。また、外国人に出会ったとき、その人の出身国の地図が全然浮かばない。世界史もあまり詳しくない。そんな経験から、自分は日本の常識はある程度あるが、世界の常識はないのだと実感した。もっと世界の常識や世界的なニュースに関心を持とうと思った。

授業のとき外国人はとても積極的だった。日本人も積極的で努力家の人が多く、彼らの学ぶ姿勢にとっても刺激を受けた。留学先に日本人が多いのは語学を学ぶ上では良いことではないが、出会いとしてはとても良かったと思う。日本人は東京、関西、北海道などから来ていたため、九州の中でしか生きてこなかった私にとっては、彼らの育った環境や背景も自分と違っていて、日本人との交流でもかなり世界が広がった。

**同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関する
こと、生活全般に関することなど自由に記載してください）**

留学先大学のしているイベントに行くと思います。リーズ大学では毎日 Conversation Club という英会話を上達させたい人に向けたイベントを行っていました。そこでは日本人以外の多くの外国人話すことができますし、General English Course の学生ではない、交換留学生や正規留学生と話すことができます。外国の方と話すと、ちょっとした内容でも文化の違いがあってとても面白いです。そして、1時間かそれ以上、ものすごく速いスピードでずっと英会話をすることになるので、英語の勉強として、ものすごく達成感があります。たとえば、ホストマザーや先生は私の話す遅いスピードに合わせてくれますが、ここではグループで話すのでそうではありません。授業中の会話は授業の内容に関することですが、こうした機会では、話す内容は自由なのでさらに楽しいです。留学中に上手くいかないことや悩みがあれば先生やホストファミリー、両親や日本の友達に相談することをおすすめします。私は、相談したことで、落ち込んだ気持ちを整理して前向きに頑張ることができました。

留学を通しての感想

イギリスに着いたとき、真っ先に思ったのは「映画の世界」ということだ。360°、どこまでも映画のセットが続いているような景色で、本当にきれいで、素敵で、感動した。田舎のほうにはたくさんの羊が放牧されていて、通学路には野生のリスがいた。植生も全然日本と違って、建物はすべて赤レンガか石で、本当に感動した。家のづくりも全く違った。3階建ては普通だし、地下室もあって、鍵も絵にかいたような鍵と鍵穴で、家は箱みたいだと思った。日本のように庭に出られるような大きな窓がなかったからかもしれない。大学も信じられないほど大きく、毎日驚きの連続だった。

イギリスのご飯を初めて食べたとき、一口目はおいしいと思ったが、だんだん、「あれ？無味...。」となった。イギリスの食べ物は、別に特別まずくはないし、レストランの料理は割とおいしかったが、ホームステイ先や大学のカフェテリアの料理は「無味」だった。塩をあまり使わないからなのか、いつも味が足りない感じだった。日本人と味覚が違うから私が味を感じにくかったのかもしれないが、「見た目でおいしそう！」と思って買っても味がなかったことが多く、少しショックだった。しかし私は色んな食べ物に興味があったので、新しい料理を試すのが毎日の楽しみだった。

イギリスのケーキは信じられないほど甘く、そして大きかった。砂糖だけでは作れない甘さだと思う。スパーシーなチキンのお店にも優雅なケーキ、授業のまとめや Photo Exhibition や会話のイベントのときは紅茶とビスケット。そういう文化が私は大好きで、とても楽しかった。ラズベリージャムは日本でいうあんこみたいな感じで、色々なお菓子に使われていた。

私は日本はもう欧米化が進んで日本らしさなどほとんどないと思っていたが、日本らしさはないししっかりと残っていることに気づいた。日本の家は低いし、モダンな家でも日本らしさが残っている。間取りもイギリスとは全く違う。ご飯もちまちまと品数が多い。私が初めてリーズ大学のカフェテリアでご飯を食べたとき、3種類くらいはおかずを食べたいと思い、3種類料理を選んだ。すると店員さんがついでくれた量は想像よりはるかに多く、3種類も頼むと食べきれないくらいの量になってしまった。それに比べて、日本の学食には小鉢がたくさんあるし、お肉にはかならず野菜がついている。やはり、食生活が欧米化したと言っても、まだ日本の食生活は生きているのだなと思った。ファッションについてもそうだ。日本人女性はアクセサリーや靴下、服の素材にこだわったり、袖口や襟元からレースを出してみたりなど細かいところまで可愛くしようと工夫する。イギリス

で見た女性たちはとてもシンプルな服装で、全身黒のようなファッションの人がとても多かった。また、ほとんどの女性がズボンをはいていた。時々スカートの人もあったが、丈がとても短くて、日本とは違うと感じた。イギリスと日本、どちらのファッションも素敵で、文化があらわれているところがとても面白いと思った。

イタリア人のハウスメイトがパスタをふるまってくれた。とてもおいしかったのだが、彼は作るとき「It's impossible! It is fake」と言っていた。私は「そんなことない、おいしい」と思っていたが、私が日本食を作ったときその意味がよくわかった。私はホストマザーとハウスメイトに日本食をふるまった。しかし、醤油やみりんの味が違うし、片栗粉は弾力が強いし、鶏ひき肉は売っていないし、豆腐は豆腐と呼べないほど不味くて、米も全然違った。インディカ米はジャポニカ米と同じ「米」とは呼べないほど形も食感も違っている。私は、日本米のおいしさを言葉で説明できなくて、世界中に日本米を輸出して世界中の人に味わってほしいと思った。ただ、味覚は難しく、私がつくった日本食は私の口には合っても、2人の口には合わなかっただろうと思う。イギリスで日本食をつくった経験から、その地でしか本当の料理は味わえないのだと、強く感じた。現地でその国の料理を食べてみたい。

色んな人種や宗教の人がイギリスで生活しているのを見て、日本は驚くほど日本人ばかりの国だと感じた。また、大学で Gender Neutral のトイレを見つけたとき驚いた。

私は教育学部家庭科専攻なのでイギリスの教育と日本の教育の違いや、その他の国の人にも教育や家庭科に関する質問をしてみて、多くの違いがあることを知った。

イギリスで日本でもよく使われているシャンプーや洗剤があり、私ははじめ、日本のメーカーの製品だと思った。しかし調べてみるとすべてアメリカの企業の製品だった。製品も飲食店も、イギリスと日本で共通して知られているものはアメリカの企業が多いとわかり、アメリカの大きさや世界的な企業になることの厳しさなることどを感じた。

イギリスから見た日本は「日本=SUSHI」という感じだった。日本人が思っているほど日本は最先端の国でも、すごい国でもなく、とても小さいと感じた。あまり日本のことは知られていなかった。ただ、TOKYO の他に HIROSHIMA や NAGASAKI が知られていたことには驚いた。それだけ戦争が世界にとって大きな出来事だったのだと分かった。

留学を終えて私は物事を広い視野で考えるようになったと感じる。今まで、熊本から世界を見ていたが、今は宇宙から地球全体を見ているような感覚だ。また、授業にも以前より積極的に参加できるようになり、躊躇せず発言もできるようになったと思う。

短期留学はただただ楽しいのだろうと思っていたが、実際は、楽しいことだけでなく難しいこともたくさんあった。そして毎日たくさんの気づきがあった。私の人生で最も充実した5週間だったと思う。費用を負担してくれた両親やお世話になった人に感謝してこの経験を日々の生活や将来に活かしていきたい。

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	B さん		
所属	__法__学部・大学院__法__学科・専攻		
留学先機関名	リーズ大学 (国名: イギリス)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他:		
留学期間	2019 年 2 月 11 日 - 2019 年 3 月 15 日	留 学 開 始 時 学 年	__2__ 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ トビタテ! 留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 () ☐ 国際奨学事業 (熊本大学)		

1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	単語の確認。英語のテレビ番組等の視聴。		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	☐ プログラム費用 330000 円 ☐ 宿泊費用(寮／ホームステイ等) 上に含む 円 ☐ ビザ申請 円 ☐ 渡航費(□片道 ☒ 往復) 250000 円 ☐ 海外旅行保険料 30000 円 ☐ 食費 50000 円 ☐ その他(観光、お土産など) 150000 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL, オランダ航空	手配	阪急交通社 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本→(各自で)福岡→成田 →アムステルダム→リーズ	到着 時刻	18 時ごろ 【※移動時間(約 2 1 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☒ 公共交通機関(☒ バス ☐ 電車) ☐ その他()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	空港からは大学側が手配してくれていた。 現地での通学ではバスを利用していた。		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他()	ルーム メイト	☐ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	クレジットカードは必要だった。バスの定期や電車の切符などはインターネットで買う方が圧倒的に安く、クレジットカード決済だったから。携帯は現地で SIM カードを買った。荷物は同行者の数人はロストバゲージになり、困っていたので、機内持ち込みに一泊分ほど入れておいた方が安心だと思った。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	一週目は写真についてで、撮り方について講義を受けたり、実際にフィールドワークで写真を撮りに行ったりして、その成果の発表会があった。二週目から四週目はヴィクトリア時代について学び、またパワーポイントを使った発表及び、クリエイティブライティングの課題があった。五週目は英語の勉強法について班ごとに発表して、送別会のようなものが最後に開かれた。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	特に困ったことはなかった。担当の先生がいたので何か困ったらすぐに相談できると思う。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	学生証を受け取りに行った。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	長期滞在している留学生などにおすすめの場所を聞き、毎週末旅行していた。基本は日帰り旅行で湖水地方、ヨーク。リヴァプールに行ったが、ロンドンには 2 泊で行った。電車やバスなどはアプリで予約した。その他の休日は授業の復習や課題、またホストファミリーと出かけたりなどした。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

母国語が通じないということはとても不便だったし不安になることもあったが、とても刺激的な環境だった。周りは英語で書かれていたり、話していたりしたので、全てが勉強になった。また、日本人は消極的と言われる意味が海外に行くことで、より鮮明に分かった。日本にいるころは比較的積極的に授業に参加するようにしていたが、イギリスでは英語に自信がないから消極的になってしまったし、そういう日本人は多いのだと思う。しかし、英語が十分に話せなくてもビジネスや専門分野での場面ではない限り、交流することは十分にできた。聞き取れなければ聞き返せばいいし、ジェスチャーなども使うので、なんとか意見交換はできたし、うまく伝わったときはうれしかった。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

イギリスに行きたいという人は多いと思うが、リーズはそういう人たちの期待を裏切ることではない街だと思う。ご飯も全然不味くないし、留学生たちの話を聞くにホストファミリーも親切な人が多いようだった。ただ、春のプログラムでは日本人がとても多いので、他国の人との交流という意味では他のプログラムよりは機会が少ないかもしれないと思った。しかし英語の上達に関しては、個々人によるところが大きいので、日本人が多いからといって英語学習がままならないということはないと思う。

留学を通しての感想

今まで一度も海外に行ったことのない私にとってはとても刺激的で貴重な日々だった。5週間を最初は長く感じていたが、あっという間に終わってしまった。日本ではできない体験や、そこにしかないものなど、毎日が楽しかったが、英語の上達のためには時間が足りなかった。現地での出会いもあったし、リーズを去る時はもっと居たいと思って寂しかったが、海外を体験するという意味では丁度よい期間だったと思う。リーズのプログラムのように1ヵ月も海外に滞在する機会はないだろうし、今後の英語学習のモチベーションにもなったので、このプログラム得たものは多かったと感じている。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	C さん		
所属	工 (学部)・大学院 数理工 (学科) 専攻		
留学先機関名	リーズ大学 (国名： イギリス)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2019 年 2 月 11 日ー 2019 年 3 月 15 日	留学開始 時学年	3 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	BBC radio, 単語帳, アプリや動画		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	☐ プログラム費用 約 32 万円 ☐ 宿泊費用(寮/ホームステイ等) 約 126,000 円 ☐ ビザ申請 円 ☐ 渡航費(☐ 片道 ☐ 往復) 約 235,000 円 ☐ 海外旅行保険料 約 24,000 円 ☐ 食費 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL, KLM	手配	阪急交通社 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	福岡→成田→アムステルダム→リーズ	到着時刻	17 時 【※移動時間(約 18 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☐ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☒ 公共交通機関(☒ バス ☐ 電車) ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	大学手配の出迎えでリーズ大学に移動し、リーズ大学でホームステイ先の車で家に移動		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他()	ルーム メイト	☒ 日本人学生 ☒ 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	洗濯が一週間に一度だったので、服を結構持っていく必要がある。 バス、電車はアプリで予約可能。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	General English Program: 平日の午前中 イギリスの風景や歴史を通して英語を勉強していくメインプログラム。基本的にグループワーク。 General English Program GE+: 毎週月曜日 英語の自然な会話を勉強するプログラム。約 10 人のグループで色々な会話をする。 Language In Context (LING): 毎週火曜日・木曜日 文学やポエム、工学や歴史から選んで集中的に勉強するプログラム。自分は Creative Writing を選び、比喻や皮肉表現などの様々な表現技法を学んだ。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	Global Café や言語交流会などの催しがあり、またプログラムの中盤にコンサルテーションがあり非常にサポートしてくださった。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	学生証の取得にはパスポートとプログラムに参加する証明書が必要
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	大学から旅行や交流などの催しがあると毎週連絡が来ていたが、リーズ付近には多くの観光スポットがあるため電車やバスを使って旅行に行っていた。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

語学に関しては、今まで正確に喋ろうと文法を気にしてゆっくり喋りがちだったが、伝わることが大事である事を知りました。文法が下手でも喋ると先生も店員も友達も笑顔で答えてくれます。

また、イギリスの文化は日本とやや似ていると感じ大きいカルチャーショックは感じなかったのですが、いい意味でカルチャーショックを感じた文化があります。それはサービスに対する客の姿勢です。バスやレストランの料理など、日本に比べたら値段は高いです。しかし、バスを降りる時、またレストランの会計の時に必ずイギリス人はお礼の言葉を伝え、チップをあげたりします。最初は驚きましたが考えたら普通のこと、サービスに対するお礼は大事であることに気がきました。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

行ってみると周りのレベルが高くて驚くかもしれませんが、でも留学先はテストの会場でもないし、ゴールでもありません、留学先で会った人たちは日本に帰るとまた各々の道に進み出します、なので自分が英語をうまく喋れない事を恥ずかしがって喋らないのではなく積極的に喋りましょう！

また、暗くなったら早く帰ることをお勧めします。日本と違って日も短く、治安もいいとは言えません。

留学を通しての感想

自分は情報工学の研究を続けたく、高専から熊本大学に編入学して英語の勉強と行動の積極性を得ることを目的に春の留学を決めました。外国に行った経験がなく、行く前は外国に行くことがどこか怖く感じ留学が決まった後も後ろめたい気持ちが強かったです。実際にイギリスに行った最初の感想は町並みも人も性格も行動も環境も言語ももちろん違って、違う世界にレベル1から転送された気分でした。リーズは学生の町と言われるほど学生が多く、また世界中の人々が留学で来ており色々な文化や考え方を英語というコミュニケーションツールを用いることで知ることができました。留学を通してレベル10くらいにはなったのかなと実感しています。ただ、しょうがないのですが、授業ではイギリスの歴史とか文学作品を用いたりして工学系の自分には厳しく感じました。それらを踏まえると留学期間も丁度良かったのかなと思います。

3年の春から留学は遅いと感じていましたが、自分の英語のレベルの低さ、行動力のなさを改めて知るきっかけになり非常に良い経験になったと思います。